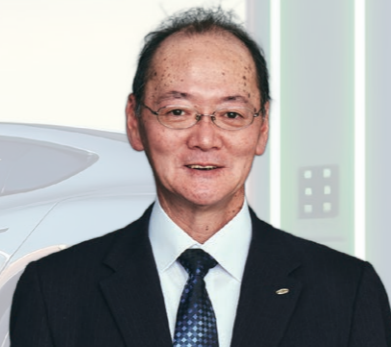


事業別戦略 — 車載用リチウムイオン電池事業

事業部長メッセージ

当社グループは、世界初の量産EVに電池を供給したほか、HEV用リチウムイオン電池メーカーの中で先駆けて量産を開始し、15年以上、安定的に電池を提供し続けてきました。こうした先駆者としての実績や高品質の製品を安定的にお届けしてきたことで、日系自動車メーカーとの関係性を深化させてきました。グローバル規模で自動車の電動化が進んでおり、リチウムイオン電池の需要は不可逆的なトレンドになっています。2030年代後半までは、HEV用リチウムイオン電池の堅調な需要が予想され、2020年代後半から徐々にBEV用リチウムイオン電池へのシフトが進んでいくものと予想されます。足元の状況としては、世界情勢のさまざまな変化の影響を受け、BEV化のスピードに変化が見られるとともに、HEV・PHEV市場の拡大延長が見込まれつつあります。

第七次中期経営計画では、HEV用リチウムイオン電池の需要増を見込んでおり、2025年度にブルーエナジーの生産能力を年間7,000万セル強に拡大することで、顧客の要求仕様を満足し、需要に応じていく方針です。PHEV用リチウムイオン電池は、昨年新モデルを発売し、継続的に安定供給していきます。BEV用リチウムイオン電池は、本田技研工業(株)との合弁会社であるHonda・GS Yuasa EV Battery R&D (HGYB)を中心として、量産開始を目指して国際競争力が高い高性能な電池の開発を推進しています。まずは、技術・サプライチェーンの確立に向けて、国内での事業立ち上げを着実に進め、足場を固めていく考えです。



(株)GSユアサ 常務執行役員
リチウムイオン電池事業部長

青山 俊之

第六次中期経営計画における事業方針

カーボンニュートラルや政府目標を機会と捉え、
リチウムイオン電池事業の持続的な成長を達成する

第六次中期経営計画における戦略および重要課題

HEV用	取り組み	進捗
	■ 歩留まり率、稼働率の向上	■ 歩留まり、稼働率の目標達成
	■ ブルーエナジー第2工場のさらなる増産体制の構築	■ 第2工場のフル生産体制となる2ラインの生産安定化の準備／モジュールラインの新設および既存ライン改造の安定立ち上げの準備中
PHEV用	取り組み	進捗
	■ 歩留まり率、稼働率の向上	■ 歩留まり、稼働率は目標未達であったが、セル組立設備のタクトタイムは目標達成
	■ PHEV用電池の生産体制の強化	■ 顧客要求数の大幅減により、ライン安定稼働に影響が出ているが、急増するESS向けの物量を調整しつつフル操業を実施中
BEV用	取り組み	進捗
	■ 開発体制の強化	■ HGYPへの増員を行い、競争力のある製品の開発を推進
	■ 事業参入への準備	■ BEV事業計画の成立性確保、および国内新車メーカーとの基本合意に向けて調整中／新工場の設備投資と量産立ち上げ手配中
12V (補機用)	取り組み	進捗
	■ 製品開発／生産準備	■ 次世代BEV向け補機用リチウムイオン電池のセル開発・量産設備の発注を推進中

GSユアサの「価値創造」
～価値を生み出す着実な進化～

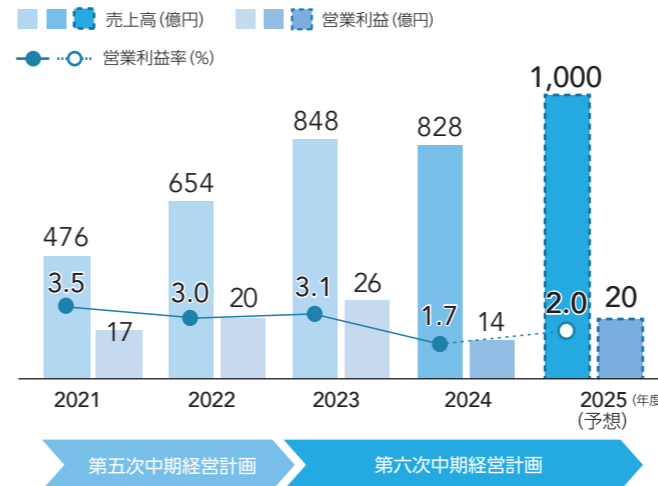
価値創造に向けた
「全社戦略」

価値創造に向けた
「事業・技術戦略」

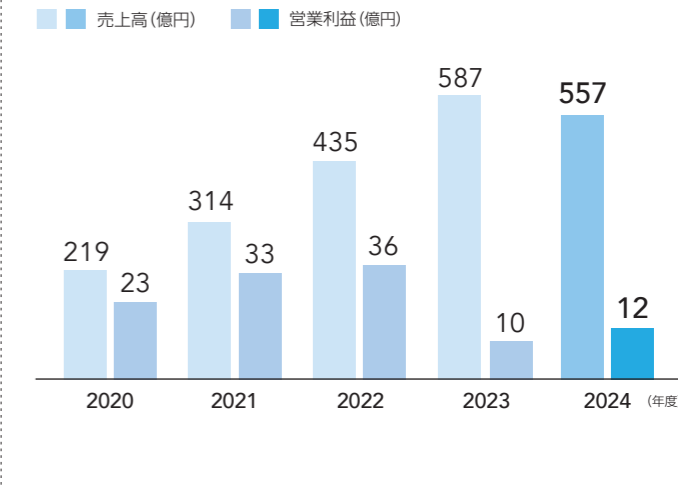
価値創造を支える
「基盤」

コーポレートデータ

業績推移



ブルーエナジーの業績推移



SWOT

<ul style="list-style-type: none"> ■ 日系自動車メーカーからの高い品質評価と信頼に基づいた盤石な顧客基盤 ■ 高出力／高容量系、長寿命系リチウムイオンセル電極・モジュール設計・量産技術を保有 ■ ブルーエナジー／旧リチウムエナジー ジャパンの実績 ■ HEVとPHEVにおける15年以上の市場での量産実績 <p>強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中韓メーカーと比べた事業規模 ■ 生産拠点の国内集中 ■ 人員計画・人材育成・採用における外部環境変化への対応力 ■ リチウムイオン電池事業としての規模・購買力 <p>弱み</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 日系自動車メーカーのHEV、BEV用リチウムイオン電池の需要拡大 ■ ESSの普及や電気車用リチウムイオン電池への適用拡大 ■ 自動運転機能などの先進安全技術の普及、車両電装部品の電力消費増大、欧州ELV規制による鉛蓄電池撤廃の可能性の高まりに伴う12Vリチウムイオン電池の需要増 <p>機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原材料価格、インフラ、人件費の高騰、安定調達への懸念 ■ 欧米の法規制、各国関税などの地政学的リスクへの対応 ■ 海外勢のシェア独占による次世代製品の競争力劣後 ■ 2030年以降のHEVからBEVシフトによる販売数量が不透明 ■ 中国以外の各国でBEV市場成長が鈍化することに伴い、BEV用リチウムイオン電池の供給過剰による低価格化 <p>脅威</p>

主な搭載車種一覧

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
HEV	ホンダ	FIT HYBRID	City Hatchback	STEP WGN HYBRID	CR-V	FREED	
	トヨタ	HARRIER HYBRID	RAV4 HYBRID				
PHEV	三菱自動車						
		ECLIPSE CROSS PHEV		MINICAB EV		OUTLANDER PHEV	

今後も販売車種を拡大

最新の搭載車種情報は、Webサイトをご確認ください。
<https://www.blue-energy.co.jp/jp/products/>
<https://www.gs-yuasa.com/jp/products/vehicle/phev.php>